

【草花の部屋】

タンポポ（キク科タンポポ属 Taraxacum Cass.）

和名：タンポポ（蒲公英） **別名**：ツヅミグサ（鼓草） **英名**：Dandelion

キク目 多年草 **原産地**：北半球の温帯～寒帯

花言葉：愛の神託、神託、真心の愛、別離 **花の色**：黄、白



← 写真-1 ニホンタンポポ

撮影日：2013年04月28日

撮影場所：大和郡山市内近隣公園にて

撮影者：M さん



→ 写真-2 ニホンタンポポ

撮影日：2013年04月28日

撮影場所：

大和郡山市内近隣公園にて

撮影者：M さん



← 写真-3 ニホンタンポポ

撮影日：2013年04月28日

撮影場所：大和郡山市内近隣公園にて

撮影者：M さん



← 写真-4 セイヨウタンポポ

撮影日：2013年03月31日

撮影場所：大和郡山市内近隣公園にて

撮影者：M さん



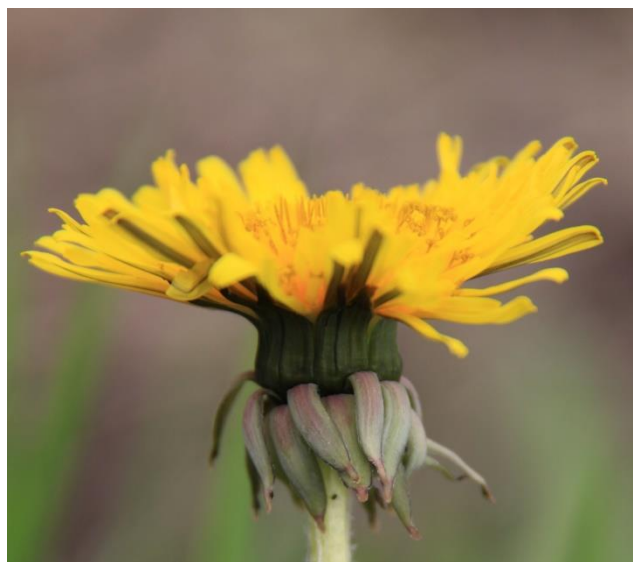
→ 写真-5 セイヨウタンポポ

撮影日：2013年03月31日

撮影場所：大和郡山市内

近隣公園にて

撮影者：M さん



← 写真-6 セイヨウタンポポ

撮影日：2013年03月31日

撮影場所：大和郡山市内近隣公園にて

撮影者：M さん

→ 写真-7 シロバナタンポポ

撮影日：2013年04月01日

撮影場所：大和郡山城

(大和郡山市)にて

撮影者：M さん



タンポポは、大きく分けると昔から日本に生育していた在来種(ニホンタンポポ：Taraxacum wiggers)と、海外から持ち込まれた外来種(セイヨウタンポポ：西洋蒲公英、Taraxacum officinale)に分けられます。在来種は外来種に比べ、開花時期が春の短い期間に限られ、種の数も少ない。夏場でも見られるタンポポは概ね外来種のセイヨウタンポポだそうです。

ニホンタンポポとセイヨウタンポポの見分け方ですが・・。花期に総苞片が反り返っていないのが在来種(写真-3)で、反り返っているのが外来種(写真-6)です。在来種は総苞の大きさや形で区別できるそうですが、交雑の結果、単純に外見から判断できない個体が存在することも確認されているそうです。

タンポポの種類は世界中に無数にあり、そのうち約 20 種が日本に自生しているといわれ、分類方法によっては 100 種以上に細分化されることもあるそうです。

ニホンタンポポにもカンサイタンポポ(関西蒲公英、Taraxacum japonicum)やカントウタンポポ(東蒲公英、Taraxacum platycarpum) シナノタンポポ(信濃蒲公英、Taraxacum platycarpum subsp. hondoense)など多くの種があり、区別が難しいと言われています。掲載した写真は、どうやらカンサイタンポポのようです。シロバナタンポポ(白花蒲公英、Taraxacum albidum)は在来種。

「セイヨウタンポポが日本古来のタンポポを駆逐してしまった」というような記述が見られますが、これは正確には誤りだそうです。セイヨウタンポポは在来種よりも生育可能場所が多く、かつ繁殖力が高い反面、多くの在来種よりも低温に弱く、初春から初夏にかけての寒暖差が激しい条件下では生育できない場合も多いそうです。セイヨウタンポポの個体数が多いために相対的に在来種の割合が減っただけで、在来種も一定の個数で存在しているそうです。また、茎を大きく伸ばさないため、かえって都市部で在来種が見られる場合も、ままあるそうです。

< ちょっと一言 >

薬草・漢方薬

タンポポの葉に含まれる成分に、C 型肺炎ウイルスを抑制する効果があり、根には健胃・利尿・催乳などの効果があるそうです。

タンポポ茶

タンポポの葉を乾燥させ、ハトムギ茶などと配合したもの。

その他

セイヨウタンポポの葉は古くから東ヨーロッパや中東で食用に供されており、多少の苦味があるがサラダなどに・・。特にスロベニアでは人気があるそうです。また、根を乾燥させて炒ったものがコーヒーの代用品(たんぽぽコーヒー)として知られているそうです。